

平成 28 年度第 1 回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

平成 28 年 5 月 10 日（火） 14 時 00 分 ～ 15 時 45 分

2 開催場所

岡崎市役所分館 3 階会議室

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（19 名）

伊豆原	浩二	委員	（愛知工業大学 客員教授）
松本	幸正	委員	（名城大学 教授）
木本	正則	委員	（名古屋鉄道(株) 東部支配人室 営業総務課長）
安達	雄彦	委員	（愛知環状鉄道(株) 運輸部管理課 課長）
近藤	博之	委員	（名鉄バス(株) 運輸部部長）
鋤柄	徹	委員	（名鉄東部交通(株) 取締役）
河口	恒徳	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長）
古田	寛	委員	（(公社)愛知県バス協会 専務理事） ※富山 純史 事務局長 代理出席
野中	寿文	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事）
前山	敏昭	委員	（岡崎商工会議所 交通部会長）
神尾	明幸	委員	（岡崎市総代会連絡協議会 会長）
中村	龍明	委員	（岡崎市老人クラブ連合会 会長）
酒井	英二	委員	（岡崎市六ツ美商工会 会長）
鈴木	泰孝	委員	（額田地域生活交通協議会）
山下	隆道	委員	（国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課 課長） ※神戸 英至 交通企画課 主査 代理出席
古橋	靖弘	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官）
桑原	良隆	委員	（愛知県 振興部 交通対策課 主幹） ※瀬古 忠義 課長補佐 代理出席
深津	博司	委員	（愛知県 西三河建設事務所 維持管理課 課長）
大野	正弘	委員	（愛知県警察 岡崎警察署 交通課 課長） ※春田 尚宏 交通課 規制係 代理出席
大竹	隆	委員	（岡崎市 副市長）
山本	公德	委員	（岡崎市 都市整備部長）

(2) 欠席委員 (1名)

加賀 時男 委員 (岡崎市障がい者福祉団体連合会 会長)

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

福澤 直樹 (交通政策室長)、水上 順司 (副主幹)、井尻 智久 (主任主査)、平松 隆 (主任専門員)、成瀬 泰樹 (主事)、湯口 航平 (事務員)、

5 傍聴者、随行者等

5名

6 会長挨拶

(内容省略)

\*国土交通省 中部運輸局より

「地域公共交通について 活発で良い議論ができる会議のために」のパンフレットの説明があった。

7 議題

(1) 平成27年度決算報告及び監査報告について

平成27年度決算について資料1により報告を行うとともに、監査委員より歳入歳出決算について適正である旨の報告がなされた。

本件について委員より質問や意見はなく、報告のとおり承認された。

(2) 平成28年度予算案について

平成28年度予算案について資料2により説明をした。

<以下、各委員の意見等>

副座長：今年度の事業は昨年度同様かなと思っておりますが、予算が増加している理由を教えてください。

事務局：昨年度より増加している理由については、外国語版の公共交通マップの作成を新規で実施することと、岡崎城下家康公秋まつりにあわせて開催いたします「公共交通に親しむ日」事業を、今年は市政100周年を迎えますので、趣向を凝らしたものを予定しているためです。

座長：11月5・6日に開催される家康公秋まつりと同時に「公共交通に親しむ日」を一緒にやっていただくという事ですので、委員の皆様も、周囲の皆様

さんにPRをお願いしたいと思います。

ご意見等ないように思いますので、ご承認いただいたという事でよろしいでしょうか。

委員： 異議なし。

(3) 岡崎市地域公共交通網形成計画について

岡崎市地域公共交通網形成計画について、資料3により説明した。

<以下、各委員の意見等>

座長： パブリックコメントで市民の皆様からの意見を頂いたものです。それに対しての市からの対応という事でご説明をいただきました。

副座長： パブリックコメントでたくさん意見がきていることは、大変良いことだと思います。網形成計画はマスタープラン的な基本方針が示されていて、他の自治体ですとほとんど意見が出てこないことが多い中で、これだけ多くの意見が出て来たという事は、市民の関心の高さを表しているとともに、分かりやすい計画になっていると思います。

そういう意味で、いただいた意見には、丁寧な回答をすることが大事であると思います。基本的には、丁寧に答えていただいておりますし、方向としても間違っていないと思います。

いただいた意見に対して、「計画案に書いてありますので原案どおりとさせていただきます」という回答は良いと思いますが、「〇〇と考えておりますので、原案どおりとします」という回答は計画案に書いてあるのか、書いてないのか判別しにくいので、考えているのか、計画案に書いてあるのかを明確にしたほうが良いと思います。

座長： 「今後の参考とさせていただきます」という回答がありますが、施策展開するとき、市民の方の意見をどこで参考にしたのかわからないと、市民からの信頼を損ないかねないと思います。行政だけではできないことがたくさんありますので、支局の中で交通事業者の皆さんなどと検討していくという表現の方が市民の方に理解が得られやすいのではと思います。

すぐに対応できないことも多いと思いますし、網形成計画はマスタープランですので、回答については、丁寧な回答方法を私達で考えなければいけないのかなと思います。

事務局： ご意見をふまえて回答の表現をご相談させていただき、対応させて

いただきたいと思います。

座 長： 事務局と私どもとで、もう一度見直して、修正させていただき、委員の皆様にはまた改めて資料をお送りさせていただくという事で、ご了承いただけたらと思いますが、よろしいでしょうか。

委 員： 異議なし。

座 長： 岡崎市地域公共交通網形成計画（案）についても、若干の修正があるかと思いますが、基本的にはこの内容でよろしいでしょうか。

委 員： 異議なし。

座 長： もう一度チェックをして、この岡崎市地域公共交通網形成計画の成案としていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

- (4) 額田地域のコミュニティバス等の改善について  
額田地域のコミュニティバス等の改善について、資料4により説明した。

<以下、各委員の意見等>

委 員： 昨年度、タクシーの流動分析に基づく地域公共交通ネットワーク形成に関する調査を行った。この調査の中で、タクシー利用を全額補助にしたほうが、コミュニティバスやデマンドバスを走らせるより経費が安価であるケースもあった。

報告書を運輸局ホームページにアップしていますので、参考にさせていただきたい。

事務局： 今の運行は平成26年10月から行っています。地域との協議の中で、バスであれば混乗になじみがあるが、タクシーでは混乗にはなじまないという話がありました。しかし、バスやジャンボタクシーにこだわることは難しい状況と理解しています。タクシーも視野に入れて地域の人達と考えていきたいと思っております。

委 員： 額田地区の人口減少に伴い高齢化が進行している。バスの利用についても車を運転できない交通弱者である高齢者が多く利用しています。

アンケートを実施されたという事で、それらのニーズを取り込んで今後

のバスの運行の検討資料にされるとのことだと思います。

その他は、高齢者だけでなく、高校生を持っておる親御さんの方が、本宿駅まで毎日送り迎えをしていると聞いています。送りや迎えだけでも、その高校生を取り込めればバスの利用も増えるのではとっております。

座長： 地元の皆さんの移動形態や、移動の目的、ニーズ等をアンケート等で集計をお願いします。また、フェイス to フェイスで話をするとずいぶん違う事もあるので、このアンケートをベースに地域の皆さんと、直接話をし、ニーズを把握していくのが大切ではないのかと思います。スタートし、チェックをしながらもう一度スタートするという事を繰り返すことが必要です。皆さんと一緒に意見をお聞きしながら、当面の目的はここまでにしようとか、目の前の話も含めて、話を進めていき、地域にもお願いしながら良い形にもって行っていただければと思います。

委員： 下山地区はなんとか20人程乗車していますが、他は3・4人程度で、収支率の達成は大変だと思いますが、地区によっては、宅配便が人を乗せたり、バスが手荷物運んだりする事例もあります。コミュニティバスを利用しないというのは、利用者からみて不便だからだと思います。運行ダイヤに合わせて利用するのか、それとも、乗合せという事で、時間をフリーにして、利用者を増やして採算がとれるような運行とするのか、採算がとれなければ補助するのか、税金の投入が少なくなることを考えていくべきなのか、発想を変えて考えたほうがいいのかと思います。

座長： 答えは1つではないかもしれませんが、どこからどのように進めるかを、この形をベースにして、次のステップを考えていくことが必要です。

先ほどの診療所アンケートの実態をみても、車が乗れなくなったら利用するよという話がよくあります。でも、車が乗れなくなったらバスは乗れません。足が痛いのならバスに乗るより車の方が楽だと思います。アンケートだけではなくて、フェイス to フェイスで住民の皆様と話をしながら、良い仕組みを模索してほしい。目的は一緒なので、今のご意見も含めてご検討いただきたいと思います。

副座長： 基本的に、収支率25%以上は重要だと思いますし、そこから考えると、実はタクシーを運行した方が効率的です。例えば、豊富夏山地区の額田地域コミュニティバスの資料をみていただきますと、年間利用者446人、それに対して運行経費が364万9133円、1人あたり8,000くらいです。8,000円×400人で320万円、タクシーであれば一乗車で8,000円もかからないくらいで済みます。

宮崎地区でいうと 465 人ですから、一人 1 万円以上かかっているという事は、明らかにこの方々にタクシーを使っただいて、そのタクシー代を行政で払っていただくのが効率的だという事です。

一つの切り口として、行政の担当者が、診療所まで行ってアンケートをやっていただくことは良いと思いますが、一番大事なのは、この後だと思います。この地区の将来をどうしますか、バスが必要かどうか、あるいはバスがない地区でいいのかどうか、というところだと思います。先ほど高校生の利用という話もあったと思うのですが、高校生が持つような世帯に住んでもらう地区なのか、いなくなっても仕方ない地区なのか、皆さんで、地区の将来をどうするかって考えてもらうことが必要だと思います。5年後 10 年後の人口や、皆さん 5 年後 10 年後何処にいきますか、っていうようなことを考えながら、今、何をすべきか、皆さんで考えてもらうのが必要だと思います。その時に、10 年後も若い世帯に入って来て貰いたい、高校生の通学にはバスがいるという話もまず必要ではないのかと思います。収支率という切り口から効率化を図っていこう、あるいは今の利用からどのような形態にしていこうかっていうのも必要かもしれませんが、実は、地区の将来にとって何が必要か、住民の方々が何をやってくれるか、考えていくことだと思います。

良い事例が、世帯数をみていただきますと、下山地区の世帯数が一番少ないです。豊富・夏山地区は 1,000 世帯超えております。宮崎は 500 世帯ありますが、下山は 250 世帯弱にもかかわらず利用者数が一番多く 5,000 人近くが乗っております。下山地区の方々は、きっとこのバスが必要だとして様々な取組みをしているのだと思います。ここができるかどうかをお願いしたいと思います

座 長： あまり焦らなくていいと思います。単的に、短絡的にならないようにした方がいいと思います。

知恵を出し合って、絞って、帰ってからでも皆さんのお知恵をいただきたいと思います。

## 8 その他

### (1) 福岡町線の運行経路変更について

福岡町線の運行経路変更について、資料 5 により説明した。

委 員： 諸般の事情によって定時的、安定的な輸送ができないという事が確定してきましたので、お客様の混乱をまねく前に専用道路から付替えというかたちを取らせていただくことになり、この設定にあたりましては、関係

各社の方々に多大なるご協力とご支援いただきまして、この場をおかりしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

座 長： まちづくりの整備の中でのバス路線の変更について、経緯も含めてご説明いただきました。

利用者の方が、迂回で減少することが出て来るかなと思います。地元の皆さんに了解していただいたと思いますが、いかがですか。

事務局： 地元の総代さんと地域の皆さんを対象にして、説明会を開催し、ご理解をいただいたところでございます。

座 長： 道路の関係はなかなか難しいところがございます。まちづくりとの連携についても、網形成計画の中でもありますので、こういったことも考えていく事も大切かなと思います。

## (2) 平成 28 年度岡崎市公共交通マップについて

平成 28 年度岡崎市公共交通マップについて、マップにより説明をした。

座 長： 額田地区のフリー乗降は皆さん利用していただいているのかなと気になっています。何のためにフリー乗降にしたとか、やはり、皆さんにお話ししたほうが良いのではないかって思うのですが、どうですか。

事務局： 豊富地区線では、フリー乗降区間のバス停で乗降するお客さんに、区間内であればどこでも乗降できると伝えていますが、他の地区線では、バス停で乗り降りしているそうです。

座 長： フリー乗降を利用できるということを、地元の皆様にお伝えしていますか。手をあげたら停まって貰えることを、伝えることが大切だと思います。そこが伝わってないと思います。

事務局： 今年度の4月から、地域に入っていますけれども、フリー乗降の情報提供までは実際に出来てないので、各地区にお願いをするアンケートの際に、フリー乗降についてお知らせしたいと思います。

座 長： フリー乗降区間にバス停が書いてあるので、ここまで行かないといけないのと思っている人もいないのではないですか。

事務局： 今年度、初めてこのマップにフリー乗降の情報を反映させたので、活用しながら説明していきたいと思います。

座 長： 是非、お願いしたいと思います。

9 連絡事項

次回会議（平成 28 年度第 2 回）は 6 月下旬頃を予定

－ 会 議 終 了 －